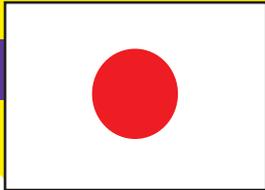


2008●図書館展示 9月

2008年9月1日～9月26日

ブラジルの音楽に触れてみよう!

2008 日本ブラジル交流年
(ブラジル移住から100年)



企画●高田涼子 (国立音楽大学附属図書館閲覧参考部)

場所●図書館ブラウジングルーム・AV資料室

ブラジルの音楽に触れてみよう！

2008 日本ブラジル交流年（ブラジル移住から100年）

企画 高田涼子（国立音楽大学附属図書館閲覧参考部）

はじめに

2008年は日本ブラジル交流年です。1908年（明治41年）4月28日、第1回日本人移住者781名が笠戸丸に乗り、約2ヶ月後の6月18日サントスに入港、ブラジル移住が始まりました。それから今年で100年。世界最大の日系社会を築いたブラジル移住者の子孫は、現在では150万人を擁するとも言われています。そして、ブラジルを愛し、ブラジルで暮らしている日本人は30万人を超えたそうです。



歴史を遡れば民俗音楽や民謡などきりがありませんので、今回は19世紀以降のサンバやボサノヴァなどのブラジルの音楽のほんの一部をご紹介します。

ブラジルの音楽

クラシックではヴィラ＝ロボスの ブラジル風パッサ ショーロス、ミヨーの スカラムーシュ やアブレウの ティコティコ などが有名ですが、サンバの名曲では ブラジル や クマーナ なども、恐らく耳にしたことがあるでしょう。また、ボサノヴァでは イパネマの娘 Wave おいしい水 マシュケ・ナダ、ポピュラーの コパカバーナ なども聞いたことがあると思います。サンバやボサノヴァのほかにも、ショーロ、バイーア、北東部の音楽などなど、ブラジル音楽は奥深く豊穡です。また、ブラジルで盛んに使われる MPB（ムジカ・ポプラーレ・ブラジレイラ）という言葉は、民俗的な音楽と大衆的な音楽とをひっくるめた概念です。

リオのカーニバルと日本のカーニバル

南半球では真夏の2月に、リオ・デ・ジャネイロで開催されるサンバ・コンクールをご存知でしょうか？よくテレビなどで放映されている「リオのカーニバル」です。その昔、厳しい労働を課せられた奴隷たちに、カーニバルの日だけ王侯貴族のような衣装で踊ることが許されたことに始まったそうです。ブラジルサンバに匹敵する日本でのカーニバルと言えば、徳島県の阿波踊り...本場リオのカーニバルに参加したこともありますし、1998年にはホルルル・フェスティバルにも参加しています。

日本でも各地でサンバ・カーニバルを開催している所があります。群馬県の桐生市では、工場働くブラジル人たちと町の人達の融和を図るために、また、同じく大泉町でも住民の1割が外国人でそのうちほとんどは南米からの日系2世や3世だそうで、平成3年からサンバ・カーニバルが始まりました。他にも、神戸まつりでもサンバのパレードが行われていたり、茨城県の古河市では祭り歌をサンバにアレンジした御神輿担ぎをやっていたり、熊本県の火の国祭りであるおてもやん総踊りがサンバ風アレンジされたりしています。

上記はカーニバルの例ですが、日本版リオのカーニバルとも言えるサンバ・コンクールといえば、やはり今年で28回目を迎えた「浅草サンバカーニバル(2008年8月30日)」です。沿道には観客が40万人、参加者は28チームの約5000人で、行進するサンバは「動くオペラ」とも評されているそうです。

サンバ

ブラジルのカーニバルと聞いて思い浮かぶのは賑やかなサンバですが、もの哀しいしっとりした曲から、カーニバルのために作られた華やかな曲まで実に多種多様です。また地域によっても種類や呼び方が異なり、細かいものを含めるとリズムやスタイルは100を超えるといわれ、それぞれに名称がつけられています。

19世紀の終わりごろ、ブラジル北東部のパイア州からリオ・デ・ジャネイロにアフリカ系黒人が奴隷労働者として連れてこられました。彼らのリズムを母体とするサンバ(samba ポルトガル語)は、急速で激しい4分の2拍子のダンス音楽でした。サンバのリズムは、アフリカのパーカッションの影響を受けています。パトゥカーダ(Batucada)という打楽器のみの構成による音楽をもとに、ショーロ*1やルンドゥーなどの要素がとりこまれ、サンバは今ではブラジルを代表する音楽ジャンルとなりました。アフリカの宗教的民俗舞曲と、ポルカやマズルカなどの舞曲等とが混ざり合ったのです。ラテン音楽の一つとして分類されますが、使用する楽器がラテン音楽の楽器とは異なるものが多いので、正確にはラテン音楽には入らないという意見もあります。

*1: chorar (ポルトガル語、「泣く」という意味)。19世紀末頃に生まれたブラジルの伝統音楽。フルート、ギター、カヴァキーニョ(小型4弦弦楽器)のトリオ形式で演奏されていたが、その後、バンデイロ(タンバリンに似た打楽器)、バンドリンが加わり、ショーロの最も基本的な楽器編成が完成した。

サンバの踊りはほとんどが即興です。当時、黒人達はおへそを突き出してお腹を合わせて踊るウンビガーダが禁止されたので、名称だけをサンバと変えました。踊りのスタイルはほとんど変えずに踊り続けていたそうです。“Samba”という名称が初めて明らかになったのは、1938年にカトリックの神父が奴隷の文化として新聞に記載してからであり、黒人の文化だけでなくポルカやワルツ、ルンドゥー・カンサウンといった白人の文化も紹介しています。

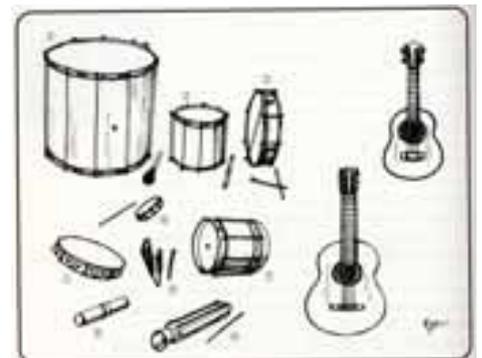


一般的に最初のサンバといわれる作品は、異論はあるものの、ドンガ&マウロ・ジ・アルメイダ作の「電話で“Pelo Telephone”(ペロ・テレフォーニ)」といわれています(1916年12月16日登録、1917年発売)。

サンバで使用される主な楽器

スルド(Surdo)、ヘビーキ / ヘビニキ(Repique / Repinique)、カイシャ(Caixa)、タンボリン(Tamborim)、バンデイロ(Pandeiro)、アゴゴ(Agogo)、クイーカ(Cuica)、ガンザ(Ganza)、ヘコヘコ。他にカヴァキーニョ(Cavaquinho)、ヴィオラン(Violao)、7弦ギター(violao de 7 cordas)もある。

* サンバの演奏形式毎に、使用される楽器が異なる。



ボサノヴァ、パゴージ

ボサノヴァの歴史は意外にも浅く、まだ半世紀ほどしか経っていないのです。サンバが広まった後に、白人を中心に叙情的な内容のサンバ・カンサウン(Samba Cancao)が誕生しました。1950年代後半からさらに発展し、アメリカ音楽などの影響を受けた中産階級の若者たちを中心に、リズムがさらにシンプルになり、叙情的な歌詞をのせて歌うサンバ・ボサノヴァ(Samba Bossa Nova)が流行するようになりました。あの有名な「イパネマの娘」は1962年に初めてコパカバーナで歌われました。

1980年代には、数人編成で演奏するスタイル、パゴージ(Pagode)が成立。お酒を飲んだり食事をしながら少人数で気楽に演奏をして楽しむもので、個人パーティー的で周囲の皆で共に合唱できる気軽さが受け、大流行しました。

トロピカリズモ

カエターノ・ヴェローゾとジルベルト・ジルが中心となって、ブラジルポピュラー音楽に革命を起こしたムーブメントですが、音楽だけでなく、映画や演劇、詩、美術などの分野でも起こりました。他にガル・コスタ、ナラ・レオンなども参加しました。作曲や歌唱法に独自の新たな音楽スタイルを作り出したボサノヴァとは違い、新しい態度を生み出そうとしたのです。このムーブメントは1967年10月、テレビでカエターノが〈アレグリア・アレグリア〉を、ジルが〈ドミンゴ・ノ・パルキ〉を歌い、1968年2月5日に新聞で「ア・クルザーダ・トロピカリスタ」というタイトルの記事を発表した時からトロピカリズモ(Tropicalismo)と呼ばれるようになりました。1年強という非常に短い運動でしたが、次の世代への音楽に多大な影響を与えました。

日本におけるサンバ

日本には戦後になってからラテン音楽が紹介され、昭和30年代にラテン歌謡が流行しました。昭和34年に公開されたブラジル・フランス合作映画「Orfeu Negro(黒いオルフェ)」でサンバのイメージが定着したと言われています。ブラジルと日本の音楽家同士の交流は、1979年にブラジリアン・カーニヴァルの一行を迎えて、六本木でオールナイト・セッションが開催された頃からです。1969年、長谷川きよしの「別れのサンバ」(当館請求記号:XD18245)をはじめ、70年～80年代にかけて、日本語でサンバを歌ったバンドなどのたくさんのレコードが発売されました。1979年から1986年にかけて、ドラマー吉田和雄率いるスピック&スパンは、ブラジルから来日した様々なミュージシャンたちと共演しています。60年代に日本にボサノヴァを紹介した渡辺貞夫も大きな存在です。

* その他、数多くの日本人アーティストは、「ブラジリアンミュージック」請求記号 C60-337
「あとがきに変えて - ブラジルと日本、音楽が奏でるハーモニー」p214 参照



パネル

第一回移民船・笠戸丸（1908年）

サンバカーニバルの様子

サンバカーニバルのダンサー

サンバで使用される主な楽器

トロピカリスタ全員が集合。

LP『トロピカリア・オウ・パニ・エ・シンセンシス』の製作に参加した全員の写真がジャケットに使用されている。

『イパネマの娘』のモデルと言われている女性エロイーザ

彼女の歩く姿からインスピレーションを受けて作られたというエピソードが語られている。左はポルトガル語（原詩）で作詞したヴィニシウス。

『イパネマの娘』は、今では世界で2番目に多く演奏されているらしい。

『ブラジルは泣いている』コルデルの小冊子の表紙（1980年10月）

コルデルとは、紐の文学という意味のブラジルの民衆的表現形式のひとつ。

以下は詩の抜粋。

～略～

ブラジルの民衆はいつも
困難に直面してきた
しかし賞賛してやまず、ブラジル
この自由の国を
しかし、こんなにも逼迫した事態
貧しさで涙があふれる
飢えと惨禍の涙が

～略～

我らがブラジルは巨大
その持つ富は莫大
鉱山そして牧畜
植えればなんでも育ち
その名を高めるだろう
飢えなど大放出して
だれにも借りなどなくなる。

略～



カポエーラ（カポエイラ）

もともとは16世紀頃にアンゴラ地方から黒人奴隷によりブラジルに伝えられた護身術としての格闘技。反抗する手段として用いられるようになった為、禁止令が出た。そこで、伴奏をつけた舞踊形式が生まれた。乾燥したひょうたんの実をくり抜き、弓状のパディをつけて1本弦を張ったピリンバウという楽器で演奏され、ソロに続いてコーラスが歌詩の最終部分を繰り返し唄うというもの。カポエイラの歌はすべて掛け合いから成り立っている。今でも発祥の地であるバイーア州のサルヴァドル市で見ることができる。



展示資料

図書

菊本哲也著『音楽無駄斬：音楽外論プロムナード』

東京：芸術現代社，2008。請求記号 J113-338

サンバ de 浅草とカーニバルの章では、サンバの起源や様々なカーニバルやお祭りについて取り上げている。

中原仁編『ブラジリアンミュージック』

東京：音楽之友社, 1995. (Pop 90 s; volume 1) 請求記号 C60-337

21 ページ目に中原仁氏作成の早わかりブラジル年表あり。ブラジルの国家や社会などとブラジリアンミュージックが簡単にまとまっている。214 ページの「あとがきに変えて - ブラジルと日本、音楽が奏でるハーモニー」では数多くの日本人アーティストが取り上げられている。

日本ブラジル交流史編集委員会編『日本ブラジル交流史：日伯関係 100 年の回顧と展望』

東京：日本ブラジル修好 100 周年記念事業組織委員会, 1995. 請求記号 J82-052

付表として、1803 年以降の来日ブラジル人および渡伯日本人の人物交流年表あり (p.312-324)。芸能を抜粋すると、1951 年、第 1 回芸能使節団として東海林太郎ほか一行、第 2 回芸能使節団として古賀正男ほか一行が渡伯している。それ以降は 1960 年代にカリブソ女王の浜村美智子や歌手の天津美子、指揮者の岩城宏之、外山雄三、ポピュラー音楽の江利チエミ、中村八大、永六輔、小林旭、加山雄三などが続いている。

クラウス・シュライナー著『ブラジル音楽のすばらしい世界：民謡から現代サンバまで』

東京：ニューミュージック・マガジン社, 1979. 請求記号 C33-002

ドイツ語のブラジル音楽の本の訳書。民謡音楽からフォルクローレ、サンバの黄金期、70 年代のブラジル音楽まで、全体を概観したブラジル音楽の入門書。

いまのきくを, 高場将美共著『ブラジル音楽のすべて』

東京：中央アート, 1979. 請求記号 C36-552

アーティスト名鑑、フォルクローレ雑学百科、ポピュラー音楽の代表的なリズムと形式、楽器のいろいろなどが書かれている。

ジョゼフ・M. ルイテン著『ブラジル民衆本の世界：コルデルにみる詩と歌の伝承』

東京：御茶の水書房, 1990. 請求記号 J70-720

ブラジルのリテラトゥーラ・デ・コルデルという詩的形式の民衆文学の分析やコルデルの種別と形式、小冊子の紹介など。

Antonio Adolfo 著

『ブラジリアン・ミュージック・ワークショップ：さまざまな音楽スタイルを求めて』

東京：エー・ティー・エヌ, 2005. 請求記号 J106-445

ブラジル東部や北東部それぞれのスタイルにおける特色、ハーモニー、リズムなどを付属の CD の例題とともに解説している。

レジーナ・エシェヴェヒア著

『台風エリス：ブラジル史上最高の女性歌手エリス・レジーナ』

東京：東京書籍, 2002. 請求記号 J96-591

エレナ・ジョピン著『アントニオ・カルロス・ジョピン：ボサノヴァを創った男』

東京：青土社, 1998. 請求記号 C63-267

「イパネマの娘」をヴィニシウスと作曲したジョピンの生涯を妹が綴っている。写真、ディスコグラフィ付。

Chris McGowan and Ricardo Pessanha

“ The Brazilian sound : samba, bossa nova, and the popular music of Brazil ”

Philadelphia : Temple University Press, 1998. 請求記号 J86-764

サンバ、ボサノヴァからトロピカリア、最新のブラジリアン・ポップなどの主要なアーティストとアルバムを紹介している。

David P. Appleby “ The music of Brazil ”

Austin : University of Texas Press, 1983. 請求記号 C36-497

譜例付

Tiago de Oliveira Pinto, Dudu Tucci

“ Samba und Sambistas in Brasilien ”

Wilhelmshaven : F. Noetzel, c1992. (Musikbogen ; 2) 請求記号 C56-804

三田雄士, カルメン・ミタ著

『カポエイラ : はじける肉体の即興芸術 : 自由に、軽やかに、のびやかに』

東京 : 現代書林, 2005. 請求記号 J106-839

カルロス・カラード著 『トロピカリア : ブラジルに沸き起こった革命的音楽の軌跡』

東京 : ブチグラパブリッシング, 2006 請求記号:J107-831

60年代後半に、ブラジル音楽界に革命を起こしたカエターノ・ヴェローゾやジルベルト・ジルなどのトロピカリストのエピソードを綴った本。

楽譜

江部賢一編著 “ The best music of bossa nova = ギター・ソロ ボサノバ名曲集 ”

[Tokyo] : NICHION : Distributor: Shinko Music, 1992. 請求記号 H33-177

楽譜と一緒に、リズムやコードの連結、奏法解説などがある。

「フィーノ・ボサ・ノヴァ エストラ」 : セレクション : ピアノ・ソロ

Tokyo : Shinko Music Entertainment, 2004. 請求記号 G30-528

「ラテン大全集 80」 : ピアノ・ボーカル・ギター

ヤマハミュージックメディア, [2001?] 請求記号 F22-341



雑誌

『ラティーナ = Latina : Musica para el futuro』1999年4月号, 2006年4月号

東京 : 中南米音楽, 1983-. 請求記号 P0760 542, P0760 626

中南米を中心とする世界の音楽情報誌。ブラジル音楽や来日アーティストの情報などが掲載されている号がある。毎年ではないが、2月に行われたリオのカーニバルのレポートが4月号に掲載されている時もある。2008年2月号からは、日本ブラジル移民100周年として記念特別連載が組まれている。

『Music magazine = ミュージック・マガジン』1998年9月増刊号

東京 : ニューミュージック・マガジン社, 1980-. 請求記号 P0763 30(12)

ヴィヴァ! ボサノヴァ

『Music magazine = ミュージック・マガジン』1996年5月号

東京：ニューミュージック・マガジン社, 1980-. 請求記号 P763 28(5)

特集 ブラジル音楽の新しい世界

『音遊人(みゆーじん)』創刊3号 2006年8月

東京：ヤマハ株式会社, 2006-. 請求記号 P5468 3

特集 ブラジル音楽 サウダージを探す夏

日本のブラジル音楽関係ライブハウスやショッポの紹介もあり。

『ジャズライフ』

東京：立東社, 1977-. 請求記号 P1295 32(8)

特集 夏全開！ボサ・ノヴァ

録音資料

「バヴァロッティ & フレンズ 2000：カンボジアとチベットの子供たちのために」

2000年録音 請求記号 XD45017

13曲目：サンバがサンバであるからには 18曲目：カーニヴァルの朝

「コンドルは飛んで行く～オルフェの歌」ナラ・レオン(ヴォーカル)、他 1990年録音 請求記号 XD12172

「ブラジリアン・ロマンス」サラ・ヴォーン(ヴォーカル)、他 1987年録音 請求記号 XD4022

「ゲッツ/ジルベルト」スタン・ゲッツ(サクソフォン)、ジルベルト・ジョアン(ギター、ヴォーカル)、他 1963年録音

請求記号 XD2459

「アモローザ」ホーザ・パッソス(ヴォーカル、ギター)、他 2004年録音 請求記号 XD54120

ジルベルト・トリビュー(Waveほか)

「ボサ・ノヴァ名曲名演集：イバネマの娘，カーニヴァルの朝」

エリス・レジーナ、ナラ・レオン、ガル・コスタ、ジルベルト・ジョビン、他 1991年録音 請求記号 XD23435

「Serenata carioca」小野リサ(ヴォーカル) 1992年録音 請求記号 XD20635

「Couleur bresil」Maria d'Apparecida(ヴォーカル)、他 1989年録音 請求記号 XD6630

「Os Jngenuos play Choros from Brazil」 1992年録音 請求記号 XD18392

「オブリガード・ブラジル」ヨヨー・マ(チェロ) 2003年録音 請求記号 XD51122

ボサノヴァ、ショーロ、サンバ等豊かな音楽的伝統の中から生まれた名曲の数々を、
いずれもブラジル音楽界を代表する名手たちと爽やかに快演

「ブラジルの思い出」ミゲル・プロエンサ(ピアノ) 1991年録音 請求記号 XD15004

「Carnavals du Bresil」 1992年録音 請求記号 XD17369

「Piano works」Radames Gnattali 2007年録音 請求記号 XD58896

ブラジル人作曲家ニャタリの作品。晩年にはショーロ楽団を結成した。

映像資料

Maestro soberano, Tom Jobim [Rio de Janeiro] Biscoito Fino, c2006 請求記号 VE1827-1829
アントニオ・カルロス・ジョビンが生み出したボサノヴァ・クラシックを、ライブやレコーディングの演奏シーンを中心に収録。歌唱:ポルトガル語。

音と映像による新世界民族音楽大系 15 日本ビクター, 1995, c1994 請求記号 VD3418
バイーアのポピュラーソング ; バイーアのフォークソング ; リオ・デ・ジャネイロの現代プロテストソング ; リオ・デ・ジャネイロのサンバ学校~カーニバル ; ボサノヴァ「アグアス・ジ・マルコ」

世界の民族音楽 : 民族の音楽・芸能と楽器

シリーズNHK DVD 教材 NHKソフトウェア, 2005 請求記号 VE1226
踊りと音楽:サンバ

世界の民族音楽. 中南米編

NHKサービスセンター, 発行:教育芸術社, 発売, c1987 請求記号 VB1443
ブラジル「サンバ」: リオデジャネイロの街. カーニバル. サンバ学校. コパカバーナのレストランのサンバ・ショー

音と映像による世界民族音楽大系 ; 第28巻. アメリカ篇 ; I I

日本ビクター, c1988 請求記号 VB891
サンバ -- カボエイラの踊り

Calle 54 (カジェ 54) : 珠玉のラテン・ジャズ・シネマ

ソニー・ミュージックディストリビューション, 2002, c2000 請求記号 VE678
ラテンジャズの歴史や代表ミュージシャンたちの演奏場面を撮った音楽ドキュメンタリー映画。ニューヨークのラテン音楽誕生の地・マンハッタン54丁目で収録している。



参考資料

エルマノ・ヴィアナ著

『ミステリー・オブ・サンバ : ブラジルのポピュラー音楽とナショナル・アイデンティティ』

東京 : ブルース・インターアクションズ, 2000. (Black culture archives ; 2) 請求記号 C64-783

クリス・マッガワン, ヒカルド・ベサーニャ著

『ブラジリアン・サウンド : サンバ、ボサノヴァ、MPB- ブラジル音楽のすべて』

東京 : シンコー・ミュージック, 2000. 請求記号 C64-916

ウィリー・ラウパー監修

『ムジカ・モデルナ : ブラジル・ポピュラー・ミュージック・ディスクガイド』

東京 : アスペクト, 2006. 請求記号 J109-096

ブリザ・ブラジレイラ監修

『ブリザ・ブラジレイラ : ブラジリアン・ミュージック・アラウンド・ザ・ワールド』

東京 : ブルース・インターアクションズ, 2001. 請求記号 C65-859

堀内隆志, ケベル木村, 小山雅徳〔著〕

『Domingo : Music for sunday lovers』

東京 : プチグラバプリッシング, 2006. 請求記号 J107-624

宮坂不二生監修

『ボサノヴァ・レコード事典』

東京 : ボンバ・レコード, 2001. 請求記号 J95-118

柿木央久著

『ボサ・ノヴァ CD 100 選 : 決定盤』

東京 : 河出書房新社, 2005. 請求記号 J105-199

“ Bossa nova & samba : piano collection ”

Tokyo : Shinko Music, 1992. 請求記号 F23-660

“ ボサノバ名曲集 : piano & vocal ”

東京 : 日音 : 発売: 日音プロモーション, 1989. 請求記号 F17-687



2008 図書館展示9月

ブラジルの音楽に触れてみよう！
2008 日本ブラジル交流年
(ブラジル移住から100年)



展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)
<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2008.9.3 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会:三宅巖・二塚恵里